

ディーニュ・レ・バン市と釜石市の交流について

ーラベンダー祭で姉妹都市釜石市の復興を支援ー

在マルセイユ総領事館
首席領事 長澤 秀一

2011年8月25日(木)、ディーニュ・レ・バン市*で第90回ラベンダー祭が開催されました。今年のラベンダー祭は釜石市の復興支援行事も行われましたので、その開会式の模様をご報告します。

ディーニュ・レ・バン市と釜石市は1994年にアンモナイトの化石が縁で姉妹都市関係を提携しました。当初はいくつかの交流事業も行われたようですが、その後は次第に交流が疎遠になり、ここ数年はほぼ休眠状態になっていました。



ディーニュ・レ・バン市

ところが、3月11日の東日本大震災で釜石市が壊滅的な打撃を受けたことを知ったグロアゲン市長は、いち早く見舞い状を釜石市に送り、市庁舎前に半旗を掲げ市内の公立学校では哀悼の黙祷を捧げるように指示し、同時に様々な義援活動が行われることになりました。そのことがマルセイユ総領事館に伝えられたので、私は5月にディーニュ・レ・バン市を訪れ、市長以下関係者に謝礼の言葉を伝えました。その際、8月のラベンダー祭でも復興支援のイベントを開催するので、また来て欲しいとの依頼があり、今回の開会式への出席となった次第です。

開会式には市長の他に地元選出の上院議員、アルプ・ド・オート・プロヴァンス県地方長官、同県会議長(知事)などが勢揃いでしたが、私に^{はさみ}が手渡され、テープカットを行いました。

それから特設ステージ上に案内され、ラベンダー祭実行委員長に続き一言求められたので、私からは、グロアゲン市長を始めとするディーニュ・レ・バン市民の連帯と支援活動に対する謝意を述べ、この温かい支援を受けて釜石市やその他の被災地は復興に向け懸命の努力をされており、きっと今の困難を乗り越え新たな繁栄を取り戻します。ディーニュ・レ・バン市民の気持ちは釜石市民の心の支えになっているはずだと挨拶しました。

市長、上院議員、県地方長官、県会議長からも挨拶の中で、釜石市への連帯、一日も早い復興への願いが語られました。

一連の挨拶が終わったところで、ディーニュ・レ・バン市の関係団体から総計7,000ユーロの釜石市への義援金の小切手が手渡され、開会式は終わりました。

開会式後、市長と実行委員長とで会場を一回りしましたが、いろいろなところから震災への見舞いの言葉と復興への激励の言葉が寄せられました。

その日の午後にはグロアゲン市長と釜石市の野田市長との間で電話会談が行われました。私と総領事館のフランス人職員が通訳として会談に同席しましたが、野田市長から支援に対する謝意と、釜石市を襲った津波被害について、復旧復興への取組について説明があり、ディーニュ・レ・バン市からの支援は大きな心の支えになっているとの言葉が伝えられると、感激したグロアゲン市長の目から涙がこぼれ落ちました。

グロアゲン市長からはこれからも出来る限りの支援活動をしていきたい、また姉妹都市交流についても再活性化していきたいと述べると、野田市長からはディーニュ・レ・バン市との姉妹都市関係締結は実父が市長時代に行われたもので、その時に送られたアンモナイト化石のレプリカは今でも釜石市に大切に保管されており、姉妹都市関係の再活性化についても力を入れていきたいとの発言がありました。

約30分の会話でしたが、お互いの真心がこもった電話会談でした。

このラベンダー祭にあわせて NPO 法人「国境なき子どもたち」の海外派遣事業で岩手県から二名の中学生（釜石市と大船渡市）がディーニュ・レ・バン市を訪問し、市長を表敬したほか、同年の中学生との交流を行い友情の輪を広げることができました。

「まさかの友は真の友」そして「災い転じて福となす」。これが姉妹都市関係で送り、送られたキーワードです。

ディーニュ・レ・バン市からのエールに釜石市が真摯に応えてくれたことで、休眠から目覚めた姉妹都市関係。これを機会に新たなページが開かれることでしょう。

私たちがより意義のある姉妹都市交流となるように期待するとともに、側面的な支援をしていきたいと考えています。



開会式の様子
(左：長澤首席領事、中央：グロアゲン市長)



ディーニュ・レ・バン市を訪問した中学生
(左から休石慧枝さん（大船渡市）、佐々美波さん（釜石市）、グロアゲン市長)

* ディーニュ・レ・バン市 (Digne-les-Bains)：フランス南部、プロヴァンス・アルプ・コート・ダジュール州の都市。アルプ・ド・オート・プロヴァンス県の県庁所在地。人口は約1万7千人。釜石市とは1994年4月20日に姉妹都市を提携した。